

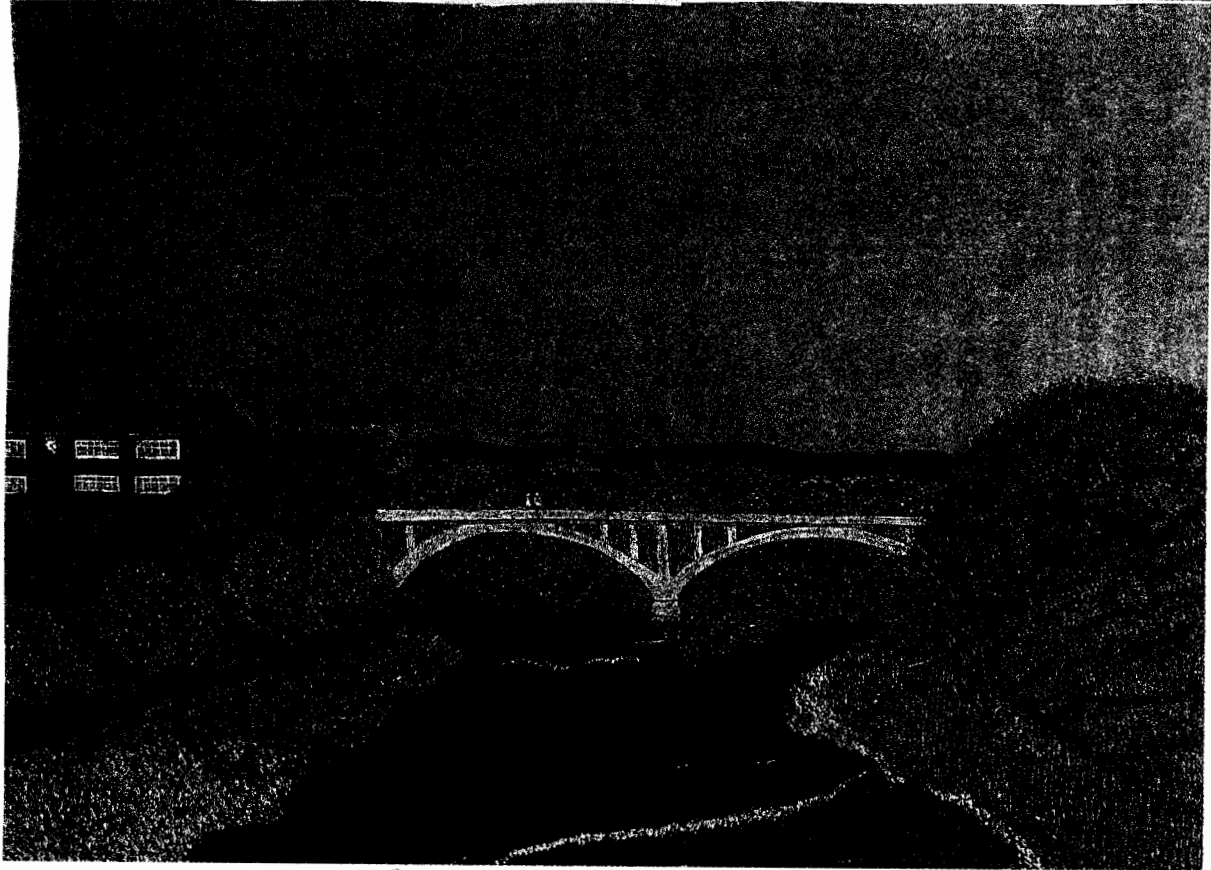
# 北社会ニュース オ72号

2011年5月16日

発行者：鈴木壮夫

私だけのふるさと

毎日 2011年(平成23年)5月12日(木) 夕刊



## 広瀬川を渡ると学び舎があった

作家・常盤新平さん（仙台市）

＝08年4月24日掲載

学校近くの渡橋はどうなっているのでしょうか。本屋をのぞいた東一番丁、国分町の辺りも。懐かしい「だっちゃん」の響きと、親切な人々。あの街にもう一度行ければと思います。

ほぼ、三ヶ月振りの北社会ですが、再開できたこと世話人として嬉しい限りです。大震災から二ヶ月を過ぎましたが、連日「亡くなられた方々」のお名前が掲載されております。住所・年齢その他とても他人ごととは思えません。でも、被災された方々に何一つ援助ができない、虚しさや悔しさ、一方自分達の生活・商売の建直し、直接的な被害に遭遇してなくても多くの人がかかり疲れ果てているのではないのでしょうか。そんな折り、常盤先輩（高2回）の“私だけのふるさと”が目にとまりました。久しぶりに心がいやされ、勇気づけられました。先週14日の対一高定期戦は3対2の逆転勝ちだったそうです。津波被害のため、一高が二高に来ての合同練習、「分かち合い」の実践、素晴らしいですね。

(1) 本日、第289回北社会

3月11日の大地震を現地で経験された方、その後罹災地に行かれた方、災害現場の様子を皆さんに話していただきたいとお願いしたところ、五名の方々にお引き受けいただきました。マスメディアからは聞こえて来ない情報・印象が楽しみです。

(2) 来月、北社会（中止した3月22日の延期開催－開催日は追って連絡します）  
講師：福原卓彦氏と私、高11回の二人が「70才の独り言」をつぶやきます。